

今号の主な内容	
2面	認知症サポーター養成講座
3面	子どもを犯罪から守りましょう
4面	架空・不当請求にご注意を
5面	新型インフルエンザ対策
6面	9月の無料健診・休日健診
8面	広報紙・暮らしのガイドの配布



★区のサービス・手続き・施設案内は「しんじゅくコール」
☎ (3209) 9999 (午前8時～午後10時)

発行 新宿区 編集 区政情報課 (毎月5・15・25日発行)
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1-4-1 ☎(3209)1111
ホームページ http://www.city.shinjuku.tokyo.jp/

生き物が暮らす 都会のオアシス 新宿中央公園ビオトープに行ってみよう



「今日はどんな生き物に会えるかな？」
ビオトープは子どもが生き物と触れ合える自然の宝庫

都市化とともに、身近な樹林や水辺にいた生き物が減りつつあります。生き物のえさやすみか、水辺が不足し、都市で生きるための環境が厳しくなっているためです。

区では、「チョウやトンボが飛び交い、野鳥がさえずる環境をみんなで作る」を目標に、「生き物と共生し、ふれあえる都市」を目指して、区民の皆さんや小学校等と協働して、ビオトープ作りを進めています。

今回は、さまざまな生き物が暮らす新宿中央公園のビオトープを紹介します。

【問合せ】みどり公園課みどりの係(本庁舎7階) ☎(5273)3924へ。

生き物の生息空間 「ビオトープ」

区では、区民の皆さんと一緒に「ビオトープ」と位置付け、活動を支援しています。特に、新宿中央公園・おとめ山公園・都立戸山公園とその周辺を「ビオトープ推進地区」とし、地区内の公園や公共施設で、ビオトープ空間の形成を進めてきました。

公園や緑地は、生き物にとってはオアシスです。たとえわずかな面積しかなくても、工夫を

凝らすことで、生き物にとって必要不可欠な場所にすることができます。

区では、公園の植え込みに鳥のえさになる実のなる木を植えたり、小学校の校庭に池を設置したりしています。小さなビオトープでも、それぞれが「えさ場」や「水場」となるように機能を分担させることで、生き物が都市で生きていくことができるように配慮しています。

新宿中央公園ビオトープ

～トンボやカエルが暮らす自然の空間～



▲羽化直後の
クロスジギンヤンマ



▶アマガエル

新宿中央公園ビオトープには、田んぼや草地など、都心では見掛けなくなった懐かしい空間があります。人為的な管理を最小限に抑えてきた結果、クロスジギンヤンマやアマガエルなどの珍しい生き物も見られるようになりました(写真)。

生き物への配慮と利用者の方の安全を確保するため、夜間は閉鎖しています。

●開放日時
【開放日】水・日曜日(月曜日・火曜日は休み)
【開放時間】4月～10月は午前9時～午後5時、11月～3月は午前9時～午後4時



田んぼの手入れにも熱が入ります

区民ボランティアグループ「新宿中央公園ビオトープの会」は、平成15年のビオトープ開園と同時に結成されました。現在、田んぼの管理・生き物調査・小学生対象の環境学習の講師など、ビオトープの整備や管理運営に協力していただいています。

会長の田中利裕さんにお話を伺いました。

「都心のビオトープは、生き物だけでなく、わたしたち人間にとっても素晴らしい空間です。先日初めてビオトープに来た方が、たくさんチョウが舞う様子を見て、「新宿にも、こんなに豊かな自然があるのか」と感動していました。

小学生対象の環境学習では、みんな目を輝かせて生き物を観察していますよ。田植えや稲刈りでは、田んぼに入るだけで本当に楽しそうです。こうした自然と触れ合う機会がもっと増えればいいですね」

新宿中央公園案内図

